

水辺の 生物



シロヤナギ (白柳)

ヤナギ科

写真提供・大竹道夫氏

シロヤナギは、北海道、本州の東北地方に分布する高さ15～20m、太さ1mに達する落葉高木で、幹は灰褐色で白っぽい。葉はやや小形で互生し、長さ5～11cm、先端はとがっており、葉の縁には細かいギザギザがある。成葉の表面は緑色で、葉の裏は粉白色。若葉のうちには両面に白い毛が生えるが、葉表の毛は成長に合わせて少なくなる。新枝にも白い短毛が密生し、木全体が白っぽく見える。

花期は4～5月で、葉より先かほぼ同時期に円柱形の花穂を出す。花穂には短柄があり、柄には2～4枚の葉がある。雌雄異株で、雄の花穂は長さ2.5～4.5cmで黄緑色、雌の花穂は長さ2～3cm。和名は、樹皮が白っぽく、葉の裏も白いことによる。

本州中部から北の山地では、広い河床がある河川の岸や中洲など、氾濫時や増水時に水がつかるところには、シロヤナギを主体に、オノエヤナギやイヌコリヤナギ、ヒメヤシャブシが混生するシロヤナギ群落が見られる。これら河辺のヤナギ林は、水生昆虫、魚、鳥類の餌場やすみかになっているが、河川改修工事などで、次第に姿を消しつつある。

日本には30種を越えるヤナギ属の種がある。ヤナギは、湿潤を好み、強靱でよく張った根を持つこと、倒れて埋没しても再び発芽する逞しい生命力を持つことから、水害防止に役立つとして川や池の周りに植えられてきた。また、土木工事にも利用されており、治山などの土留工、伏工ではヤナギの木杭や止め釘を使用し、緑化の基礎としてきた。まさに先人の知恵といえる。

取材協力：山内聖子氏

参考文献：『原色日本野外植物図譜 2 春・高山植物』奥山春季著 誠文堂新光社 1983年

『日本の植生図鑑 [1] 森林』中西哲・大場達之・武田義明・服部保著 保育社 1983年

他、ホームページ